

東京でのゼロ・ウェイストの集まり

ウィットワース真弓

米サンフランシスコ・ベイエリア在住



今年の3月に、東京でゼロ・ウェイストに取り組む方々が集まってランチ会を催し、交流を深めました。ごみ問題での集まりとしては、かなりユニークな集まりでしたので、紹介させていただきます。

開催の経緯

ゼロ・ウェイストの暮らしを紹介した、ベア・ジョンソンさんの著書『Zero Waste Home』は、20カ国語以上に翻訳され、ゼロ・ウェイストに取り組む人が世界中で続出しています。そして、海外では、私の住むカリフォルニアを含め、あちこちでゼロ・ウェイストに取り組む人の集まりができています。

日本でもそのような動きがあってもよいのではないかという思いから、私が声をかけ、初めて開催したものです。ドイツ出身で日本語も英語もペラペラの小野ばめらさんも協力してくださいました。

募集はFacebook内の「ゼロ・ウェイストコミュニティ」を通じて行いました。コミュニティは2つあり、一つは日本語専門の「Zero Waste Network Japan」、もう一つは英語専門の「Zero Waste Japan」です。

集まりの様子

ランチ会には、日本在住のドイツ人、カナダ人、マレーシア人、私のように海外経験のある日本人の方々など15名ほど集まり、国際色豊かな会になりました。写真からもそれが伺えます。

会場は原宿にある「アイプレッジ」というNPOのオフィスです。このNPOは、羽仁カンタさんが代表で、野外イベントでの環境対策事業、若者の決意につながるセミナーの開催、学びを共有する場の提供などを主体に活動しています。広いキッチンスペースがあって、食器類も豊富に常備され、20名はゆったり座れます。

昼食は各自持参ということをお願いしてはいたのですが、その際に特に条件をつけたわけではないのに、みなさんごみを出さない弁当を持ってこられ、それはそれは見事なものでした。

集まった方々の紹介

集まった方々に自己紹介をしていただき、様々な情報を共有しましたが、ここでは公に活動されてい

Mayumi's report



左から3人目が筆者。その手前が母。

る方々に限って紹介します。数々の素晴らしい活動にただただ脱帽です！

中村元気さんは原宿のキャットストリート地域で、循環型の地域社会をつくるため、「CATs」(FacebookでCATsというコミュニティページを検索)というチームの代表として活動しています。主な活動は、月1回地域の人がたくさん集まって行うクリーンアップ活動や、表参道の落ち葉と近所のお米屋さんの米ぬかを使ったコンポストづくりなどです。

ファッションモデルの小野りりあんさんは「350.org」という世界200カ国近くで気候変動問題に取り組む国際環境NGOのダイベストメントコミュニティケータとクリエイティブディレクターとして活躍中です。

Mioさんは、「OMG(オーエムジー)」という食と種の大切さや、自然に寄り添った生き方を伝えるために、韻を踏む自然派ラッパーグループを率いて活動しています。昨年11月にデビューしたばかりで、デビュー曲「OMG(オーマイ玄米)」(YouTubeで「オーマイ玄米」を検索)は、ラップ調で玄米愛を歌うというユニークなもの。将来はゼロ・ウェイストをテーマに作詞作曲を考えていっしょとか。

辻芳徳さんは、児童向けの図書『ごみはどこへ行くのか? 収集・処理から資源化・リサイクルまで』(PHP研究所発行)を執筆され、2月に発売されています。

ハイテク会社勤務の小笠原悠香さんは、繰り返し使用可能な雑貨類を販売するウェブショップを立ち上げようと模索中です。

マレーシア出身のアンジー・ティーさんは、日本では馴染みの薄い竹の歯ブラシを販売しています(英語ウェブサイト: <https://helloworldbambu.com/>)。竹の歯ブラシは生分解が可能です。

最後に、私の母である前田美和子は、武蔵野市で家庭の生ごみを堆肥化するダンボールコンポストの使い方を教えています。

次回のゼロ・ウェイストの会の開催時期は未定ですが、不定期に開催していく予定です。Facebookのアカウントをお持ちの方はぜひメンバーになってフォローしていただけると嬉しいです！